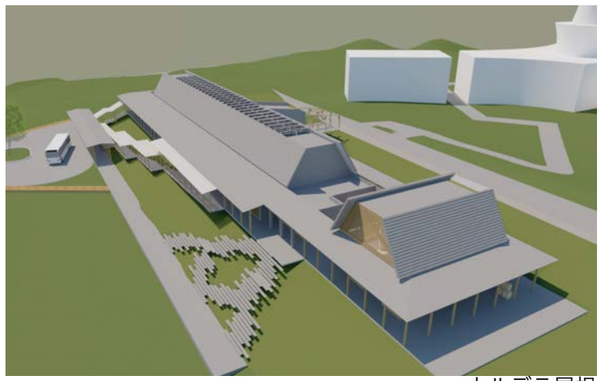
みんなの駅

熊本地震震災ミュージアムは、熊本県央を横切る日奈久断層、布田川断層沿いに点在する震災遺構や、中核拠点、地域の拠点をつないだ「回廊式」のフィールドミュージアムであり、東海大学阿蘇キャンパス中核地点はその阿蘇山側の終点です。車で回遊することになる来訪者にとっては遺構へのゲートとなる「みんなの駅」になることが相応しいと考えます。
「みんなの駅」前にはロータリーを設けて歩車を分離しつつ、「卯月の原」を整備して様々な屋外イベントが行える場とします。車寄せからススキの庭をスロープで登り、施設前面の軒下から建物に入り背後の道に接続するブリッジに上がり、震災遺構へと至る動線が、ユニバーサルであるのはもちろんのこと、強く印象に残るデザインとします。



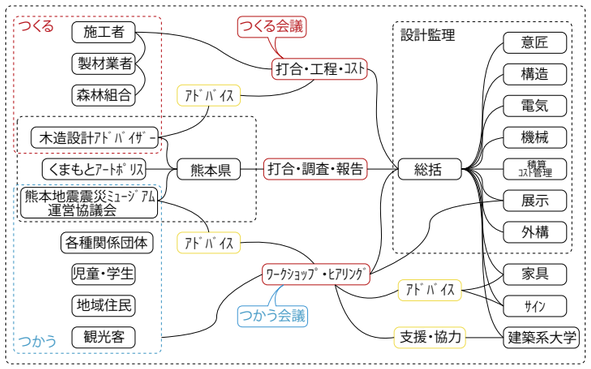
カルデラ屋根

カルデラ屋根

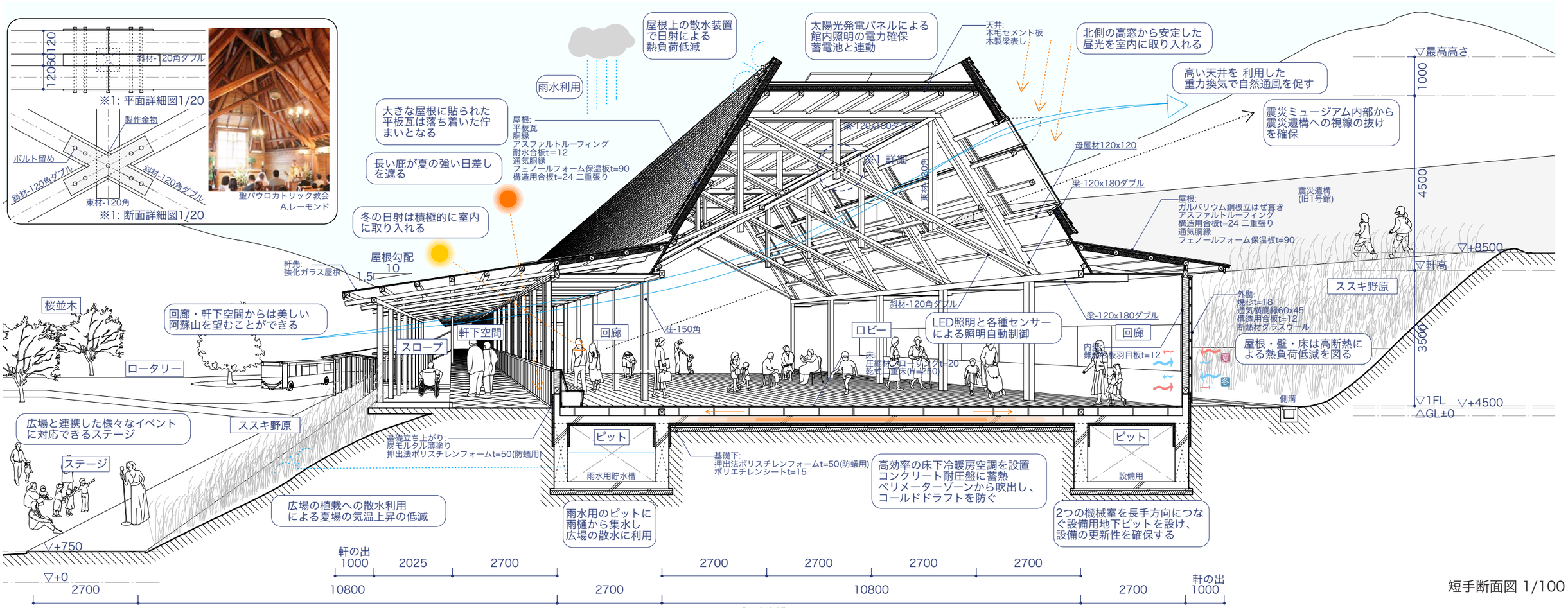
カルデラ屋根はその名の通り、頂部が開いた八の字型の断面で、上から蓋をしたような圧迫感がありません。県産の小径材（柱材）で構成されたトラスでスパンを飛ばし、屋根荷重を軽減して地震に対する安定性を高め、同一断面の反復により施工の効率化に寄与します。軽量の平板瓦仕上げは反射を抑え、鎮魂の場にふさわしい落ち着いた佇まいとなります。

設計体制：つくる会議とつかう会議

供給・製作・施工・管理の当事者と設計者で組織する「つくる会議」と、展示・語り部・教育・ユニバーサルデザインの当事者と設計者で組織する「つかう会議」を開催します。その一助として模型を使ったワークショップを行います。展示内容の更新、教育プログラム、地域活性化、観光振興などに柔軟に対応し、長く愛される建築となることを目指します。



業務体制



短手断面図 1/100

構造計画

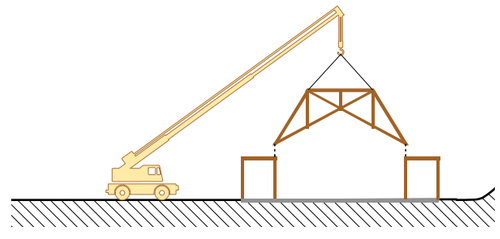
県産の小径木材を利用した 10.8m スパンのトラスが反復する、経済的かつ大らかな木架構とします。
2.7m グリッドの柱を桁でつないだ回廊の上に、地組みしたトラスを反復させ、施工性を高めます。
ホールと展示室は 1000m2 以内の木構造とし、RC 造のコアで挟んで防火性と耐震性を確保します。
コアにはトイレ、事務室の一部、備蓄倉庫、収蔵庫など非常時にも役立つ機能を納めます。

設備計画

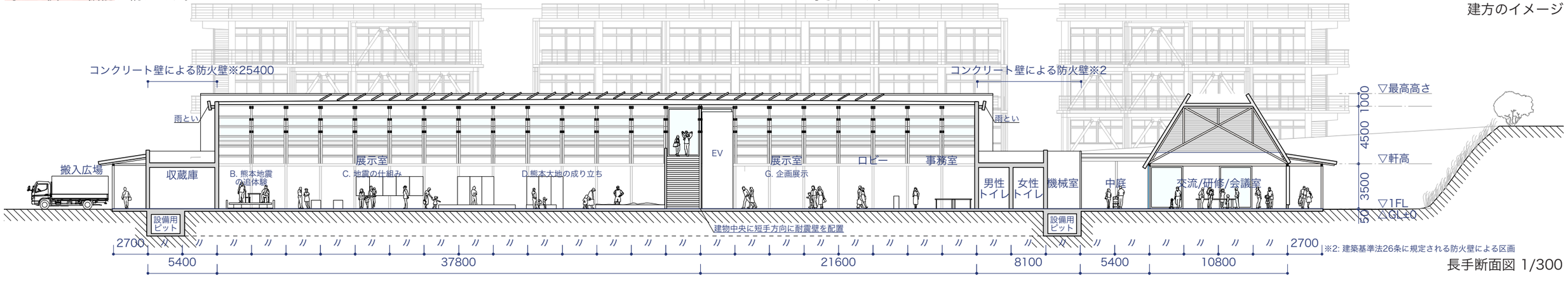
太陽光発電や雨水利用など建物を取り巻く自然エネルギーを最大限に活用することで環境負荷を低減した省エネかつ省資源となる計画とします。
断熱性能を確保し環境負荷を抑え、自然通風を最大限利用することで冷暖房の運転期間・時間を短縮します。高効率空調や超節水トイレを採用しランニングコストを削減します。

イニシャルコストの縮減

既存の雛段を維持した施設配置とすることで、造成を最小限に抑えます。
木造設計アドバイザーの助言を受けながら設計を進め、設計チーム内で段階的にコストチェックすることで確実に予算内に納めます。
小径木材によるトラスを地組みし、クレーンで設置する施工方法を検討します。施工精度を確保し、工期内の確実な完成に寄与します。



建方のイメージ



※2: 建築基準法26条に規定される防火壁による区画

長手断面図 1/300

展示計画について

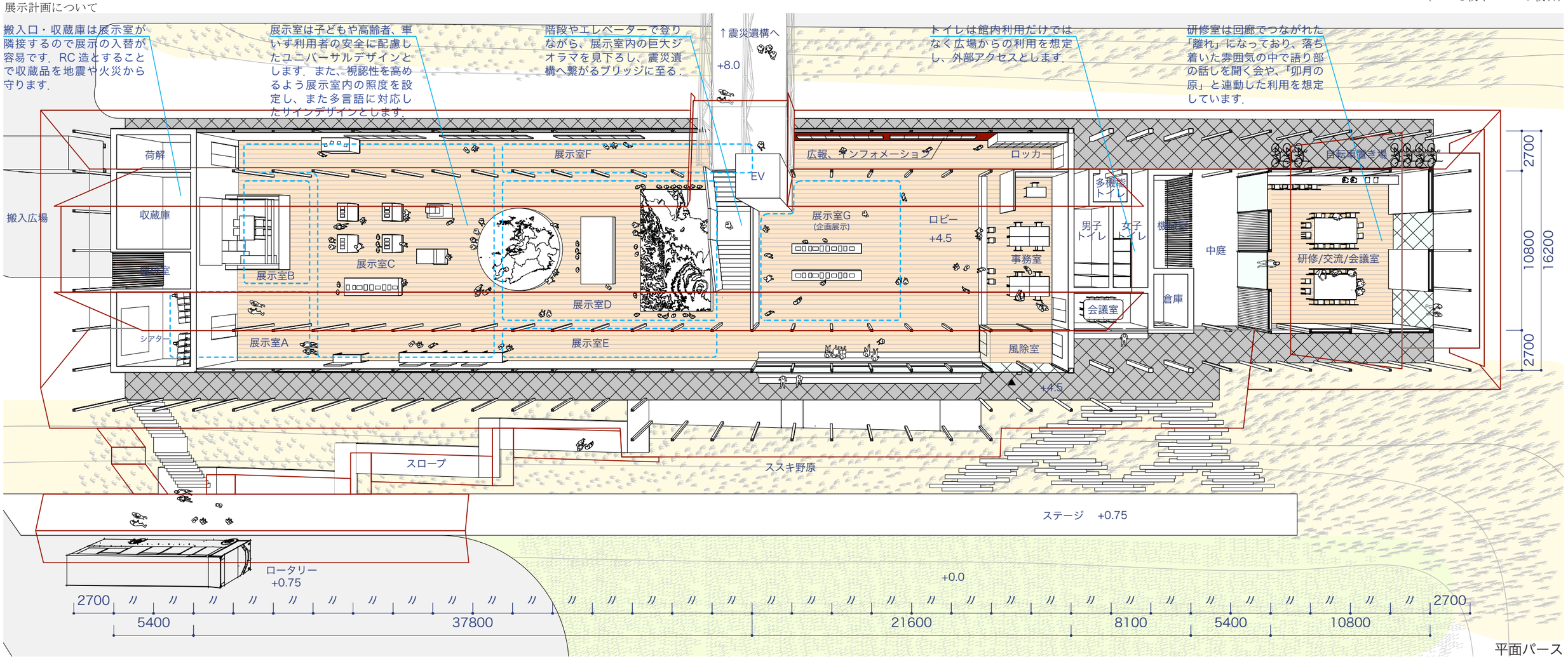
搬入口・収蔵庫は展示室が隣接するので展示の入替が容易です．RC造とすることで収蔵品を地震や火災から守ります．

展示室は子どもや高齢者、車いす利用者の安全に配慮したユニバーサルデザインとします．また、視認性を高めるよう展示室内の照度を設定し、また多言語に対応したサインデザインとします．

階段やエレベーターで登りながら、展示室内の巨大ジオラマを見下ろし、震災遺構へ繋がるブリッジに至る．

トイレは館内利用だけではなく広場からの利用を想定し、外部アクセスとします．

研修室は回廊でつながれた「離れ」になっており、落ち着いた雰囲気の中で語り部の話しを聞く会や、「卯月の原」と連動した利用を想定しています．



平面パース

回廊式展示室

回廊式のフィールドミュージアムの考え方を建築的に展開し「回廊式展示室」を提案します。回廊式展示室は、行き止まりがなく自由に居場所や経路を発見できるフレキシブルな展示空間です。2.7m グリッドで反復する細長い回廊と、それに囲まれた10.8m 幅の大きな空間の組み合わせによるメリハリの効いた適材適所の展示は、建築と一体となった新鮮な鑑賞体験を提供します。回廊部分の外周壁面にはパネルや書籍、モニター映像が展示され、大きな空間には、ジオラマ、体験装置、最新研究成果や製品等がハイサイドライトからの自然光の下で展示されます。回廊は収蔵庫に直結し展示物の更新を容易にします。

展示	ﾛﾋﾞｰ/階段/2階廊下	226
	展示室	714.4
事務	事務室	72.9
交流	研修/交流/会議室	116.6
その他	荷解/収蔵庫	72.9
	機械室	43.74
	備蓄倉庫	7.29
	ﾄｲﾚ	43.74
	合計	1298

展示室	
A:熊本地震の被害	58.32
B:熊本地震の追体験	43.74
C:地震の仕組み	233.3
D:熊本の大地の成り立ち	175
E:自然の驚異と恵み	43.74
F:地震災害への備え	51.03
G:企画展示	109.4
合計	714.4

高く幅広い展示室：幅 10.8m 天井高 8m の「カルデラ屋根」の下には、ジオラマ、体験装置、最新研究成果や製品等がハイサイドライトからの自然光の下で展示されます。

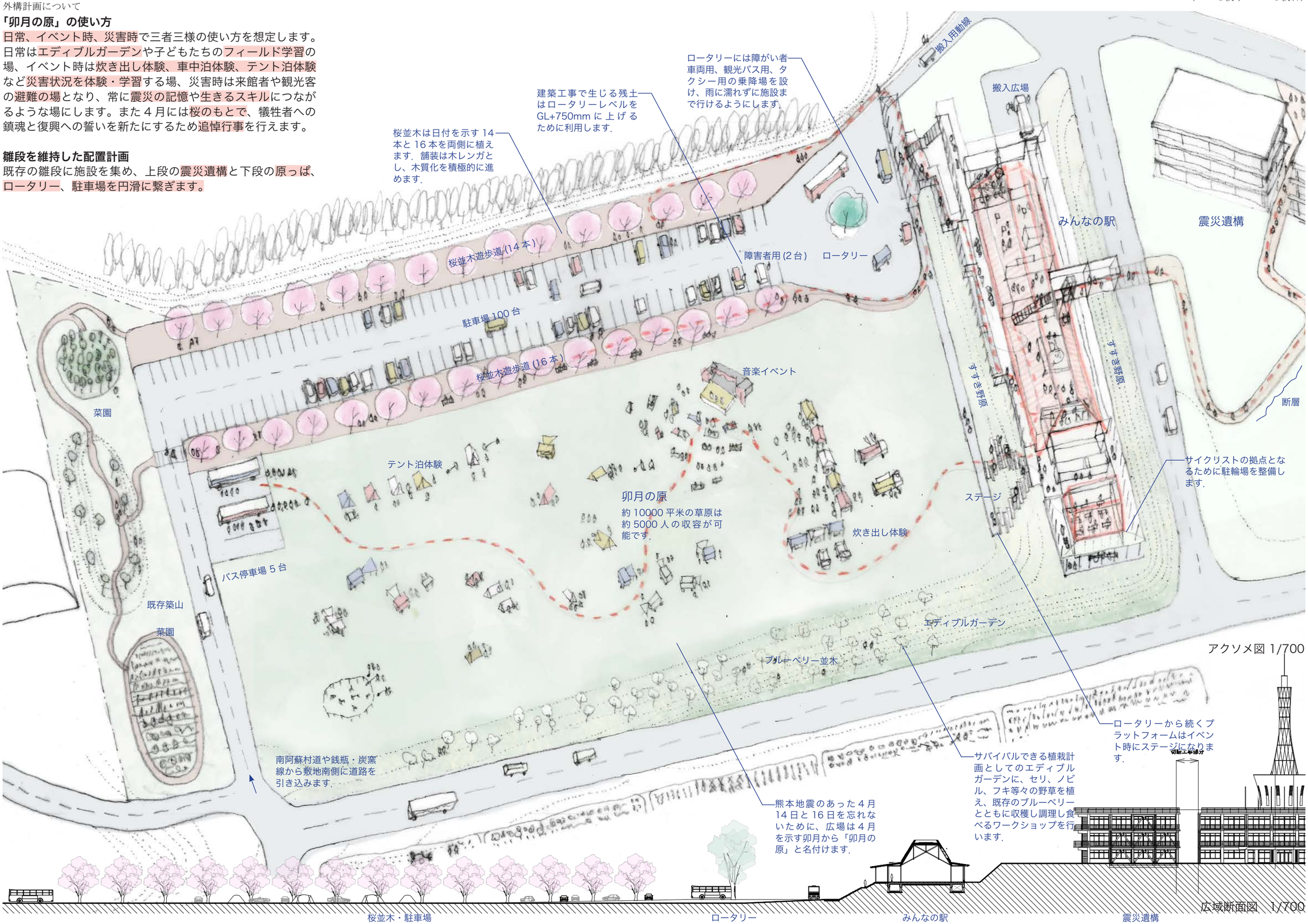
低く細長い展示室：幅 2.7m 天井高 3.5m の回廊部分の外周壁面にはパネルや書籍、モニター映像が展示されます。

ロビー：フィールドミュージアムの窓口機能とガイド機能及び、震災遺構へ導く階段とエレベーターがあります。企画展示を内包しています。

外構計画について

「卯月の原」の使い方

日常、イベント時、災害時で三者三様の使い方を想定します。日常はエディブルガーデンや子どもたちのフィールド学習の場、イベント時は炊き出し体験、車中泊体験、テント泊体験など災害状況を体験・学習する場、災害時は来館者や観光客の避難の場となり、常に震災の記憶や生きるスキルにつながるような場にします。また４月には桜のもとで、犠牲者への鎮魂と復興への誓いを新たにするため追悼行事を行えます。

雛段を維持した配置計画

既存の雛段に施設を集め、上段の震災遺構と下段の原っぱ、ロータリー、駐車場を円滑に繋ぎます。